

令和5年度 第3回学校運営協議会 記録

1 日時

令和6年2月28日（水） 13:30～15:00

2 場所

本校会議室

3 参加者

（1）学校運営協議会委員7名

A氏（学識経験者）

B氏（教育関係有識者）

C氏（PTA関係者）

D氏（企業関係者）

E氏（地域関係者）

F氏（福祉関係者）

G氏（本校職員）

（2）本校職員 8名

校長、副校長（小中、高）、事務長、総括教務主任、学部主事（小、中、高）

4 内容

（1）開会のことば

（2）校長あいさつ

本日は、お忙しい中、学校運営協議会へのご出席に感謝するとともに、日頃より本校の教育活動へのご理解とご支援、ご協力に感謝申し上げます。

昨年5月から新型コロナウイルス感染症の対応が5類になり、本来の学校生活の様子が戻ってきており、本校でもそのような様子を実感できる場面が多くなってきた。今後も、必要な感染症対策を講じつつ、新型コロナウイルス感染症とは共存しながら生活していく社会に切り替わったことを受け止め、子どもたちにとって必要な教育を行っていくことが大事であると改めて感じている。

本日は、今年度の学校運営計画を振り返りながら、それぞれの立場や経験をもとに意見を頂戴し、新年度に向けた学校づくりに活かしていきたい。よろしくお願いいたします。

（3）議事

ア 協議（進行：会長）

（ア）令和5年度学校運営状況について

資料p1～2のとおり、校長より説明

A氏：新山地区のゲートボール交流は何回ぐらい実施したのか。

高等部主事：公民館清掃の際に声をかけていただき実施した。新山地区の8名の方々から、マンツーマンに近い形で丁寧に教えていただいた。生徒たちは喜んで参加し、中には楽しくて帰りたくないと言っていた生徒もいた。今年度は9月と10月に実施したが、次年度も、寒くなる前に実施できれば良いと思っている。

E氏：地域住民も楽しむことができた。しかし、道具不足が課題である。

高等部主事：生徒たちが交流する前に、職員が夏休みに出向いて教えていただいた。

- E氏：学校で練習したい場合には、貸出もできると思うので、お申し出いただきたい。学校としても、楽しんでもほしい。また、公民館清掃も実施していただき、感謝している。
- A氏：このように、地域住民に喜んでもらったり、学校もいろいろ教えていただいたりという関係性はとても良いと思う。校長から交流についての報告もあったが、高等部は、盛岡第一高等学校（以下、盛岡一高）との交流、小中学部は、交流籍を活用した交流及び共同学習ということだが、学校間交流について小中学部はどうか。
- 校長：小中学部は、交流籍を活用した交流及び共同学習を中心に取り組んでおり、学校間交流は実施していない。交流籍を活用した交流及び共同学習について、今年度は小学校 17 校で 32 名、中学校 3 校で 3 名が実施した。小中学部は、今後もこのような交流籍を活用した形式で実施したい。
- 高等部は、本校の校歌を作詞作曲した盛岡一高教諭との縁から、盛岡一高音楽部との交流を実施したところである。盛岡一高音楽部は、開校記念式典においても、歌やパフォーマンスで盛り上げてくれた。そのような縁もあった。
- A氏：中学校での交流について、どのような取組をしているか。
- B氏：これまでは、近隣の盛岡聴覚支援学校との交流を行ってきた。文化祭を見に行ったり、郷土芸能発表会を観に来てもらったりした。次年度は、本校及び近隣小学校と、7 月に小中学校の学校公開を予定している。郷土芸能発表会と併せてお招きしたいと考えている。
- また、専門性の向上という観点から、小中学校の特別支援学級への訪問支援をぜひお願いしたい。本校では情緒学級が新設され、生徒数が増加する。特別支援学校への進学を検討している生徒も在籍しているので、ご指導をお願いしたい。
- F氏：今年初めは能登半島地震でスタートした。災害時には地域との関わりや交流が大事だと思っている。施設としての対応はもちろんだが、避難時には、地域との連携が必要であると感じた。日頃から、地域において声を掛け合ったり交流したりすることが大事であると思う。
- A氏：石川県の能登半島地震、熊本地震、東日本大震災津波等の大きな災害があったが、避難においては、日頃から障がいのある方と地域の方々とのつながりの有無が結果に影響していると聞く。高齢者も含めて地域において災害時にどうするかを考えていくことが大事である。
- C氏：特別支援学校との連携はやりやすさを感じている。学校主導で支援会議を企画していただけるので、こちらからもお願いしやすい。
- 逆に、特別支援学級とはやりにくさを感じている。時間が取れない等の理由から支援会議の実績がほとんどないのが現状である。特別支援学級とは、学習面において学校と連携を取りたい。特別支援学校では、担任がきちんと宿題を出してくれる。
- また、特別支援学級は、担任が 1 年で代わることが多いので、前年度とやり方が変わる等、指導が一定しないことがある。放課後等デイサービスとしては、特別支援学校だけでなく、特別支援学級との連携も深めたいと思う。
- A氏：特別支援学校のセンター的機能を活用して、地域の小中学校への支援も大事なところである。全国的に特別支援学級在籍の児童が増加している。また、教員不足の一因として、特別支援学級の増加に伴う対応が追いついていないことが挙げられる。学級数や障害種別の学級設置に関わって教員の配置が変わるので、制度上の問題もある。単年度任用の臨時教員が配置される場合もあるので、特別支援学級担任の入れ替わりはある。小中学校の特別支援学級担任は、小中学校の通常学級担任や特別支援学校の担任より、臨時任用教員が配置されることが全国的に多い。それらを踏まえて、特別支援学校の小中学校への支援が大事になってくる。
- 給食について、先日、小 1 の児童が給食のうずら卵を喉に詰めて亡くなった。特別支援学校では、噛まずに食べたり、丸呑みしたりする児童生徒がいると思うが、学校では、誤嚥を防ぐための研修や摂食指導を実施しているのか。
- 校長：栄養教諭による食育指導の他、児童生徒に合わせて刻み食等工夫して提供している。アレルギー食も同様である。また、配膳や食べさせる前には、安全確認をしながら給食指導を行っている。課題のある子どもには、必要に応じて言語聴覚士や作業療法士による指導を実施している。

C氏：交流籍を活用した交流及び共同学習について、小学部 17 校、中学部 3 校と、学部で開きがあるが理由は何か。また、教室不足が大きな課題となっているが、今後どのように進んでいくか伺いたい。

校長：交流籍を活用した交流及び共同学習について、小学校と中学校で差があるが、まずは学習集団の違いがある。小学校は学級単位で学習を進めるため、交流が継続化しやすい。中学校は、複数の小学校から入学するため学習集団が変わり、小学校からの継続が難しいことが考えられる。年度によって参加人数は変わるが、基本的に保護者の希望によるものである。特別支援学級から入学した生徒が希望するケースが多い。

教室不足について、令和 3 年度から急激に増加した。開校時の児童生徒数は 61 名だったが、現在は 2 倍以上となっている。現在、教室化の改修工事を進めているところである。次年度についても、県教育委員会と協議しながら進めていきたいが、県の予算からどの程度当ててもらうかが難しいところである。現状では、高校再編が進んでおり、盛岡の県立学校だけでも大きな工事が行われている。県教育委員会としても、本校の教室不足は最優先であることを認識しており、次年度も継続して進めていくことを伝えている。具体的な話はできないが、課題解決に努めたい。

A氏：県の教育支援委員も務めている。会議の中で特別支援学校の児童生徒数について話題になった。

全県では減少傾向にあるが、盛岡ひがし支援学校では増加している状況にある。今後の見通しは。

校長：盛岡地区の特別支援学校の児童生徒数がかなり増えている。紫波・矢巾地区の人口増も影響しているのではないと思われる。盛岡みたけ支援学校についても児童生徒数が増加しており、本校の開校により一時的に減少したが、現在は本校と同様に狭隘化が課題となっている。

C氏：盛岡峰南高等支援学校の状況はどうか。

校長：盛岡峰南高等支援学校は、募集人数（定員）の中で学校経営している。また、高等支援学校なので、そこに新たに生徒数を増やすことはないと思う。

C氏：紫波・矢巾地区を主に管轄する本校としては、今後も児童生徒数の増加が見込まれており、大変さを感じる。

(イ) 令和 6 年度学校運営の方向性について

資料 p 3 のとおり

A氏：「教科学習を基とする発達段階に応じた指導」とあるが、全国的に知的障害のある特別支援学校における「各教科等を合わせた指導」だけでなく、各教科の学習指導について再検討しようという動きがあるが、盛岡ひがし支援学校ではどうか。また、文部科学省著作の教科書（☆本）があるが、どの程度使用しているか。

校長：☆本については、本校においても使用している。国語、数学の授業で活用したり、合わせた指導でも活用したりしている。

学習指導要領の「生きる力を育成する」ための 3 つの柱である「何を理解して何ができるか」という知識・技能に関わること、「理解していることや、できることをどう使うか」という思考力・判断力、表現力に関わること、最後に「どのように社会と関わって、より良い人生を送るか」ということにより「生きる力」を育成することを目指している。

特別支援学校に在籍する児童生徒は、それぞれの障がいの状況や発達のスピードが違うので、段階的な指導や丁寧な指導が必要である。また、体験活動だけでなく基本的な学力の向上も図っている。

(ロ) 令和 6 年度学校運営協議会委員（案）について

資料 p 3 のとおり承認

イ 報告

(ア) 令和 5 年度主な事業の実施報告について

【小学部】

2 月 22 日（木）6 年生を送る会が実施された。各学年が日頃学習している歌やダンスを披露し、6 年

生への感謝や応援の気持ちを表現した。4月からの児童個人個人の大きな成長を感じ、大変良い会となった。69名の児童がそれぞれ進級、進学（本校中学部へ）する。

【中学部】

地域の学習として、1年生は「石橋農園」、2年生は「かどしげ」、3年生は「藤村農園」において学年ごとに実施した。

1年生は県立図書館等での校外学習をととして公共施設でのマナーを学んだ。2年生、3年生は、高等部での作業見学や作業体験を行った。加えて、福祉施設を訪問して職場見学を行い、先輩から働くためのアドバイスをいただいた。3年生は、高等部受検に向けた学習にも取り組んだ。それぞれが希望する高等部に合格することができた。

【高等部】

2月6日（火）作業製品販売会を実施した。地域の皆さんにもチラシを配付したところ、10名の地域住民に来校いただいた。地域の皆さんが声を掛け合ってくれているので、実施するたびに来校者が増えていると感じる。大変ありがたく思う。

販売会では、農福連携でご縁のあった農園のりんごを農耕環境班が販売した。また、食品加工班がその農園のりんごを使用した「りんごパン」を作って販売した。今後も、地域の特徴である「りんご園」や、北上川を挟んで向こう側には、たくさんの施設もあるので、この環境を生かした取り組みをしていきたいと思う。

(イ) 令和5年度学校評価について

資料p5～10のとおり

(ウ) 令和5年度いじめアンケート実施結果について

資料p11～12のとおり

(エ) その他

a 高等部3年生進路先一覧

p13 資料のとおり

b その他

D氏：「学校評価アンケート」、「いじめアンケート」とともに特に問題なく高評価である。引き続き先生方の指導をお願いしたい。

C氏：生活介護施設の空き状況等を伺いたい。

F氏：当施設は、現在の場所に移転してから重度の障がいのある方を受け入れている。最高齢77歳であるが、地元の老人施設に移ったり、病院へ長期入院したりするケースにより空きが生じるが多くはない。高齢による退所はあるが異動は少ない。それらにより空き状況が変動する。

(3) 委員から

特になし

(4) 校長謝辞

本日は、貴重なご意見等いただいた。本日のご意見を生かして次年度の学校経営計画を作っていきたい。新年度皆様にお諮りし、改めてご意見等をいただきながらより良いものにしていきたい。

(5) 閉会のことば